『２００１年未来基金』ワークショップ　第８班

未来の学校

発表者：障害児のネットワーク活用研究会　丹羽登

●　未来の学校に必要なこととは何か？

学校が将来的にどのように変わっていくのか？ということを予測するのは、なかなか難しい。例えば、今引いている LAN 回線にしても、将来的には無線回線などが広がれば、どのくらい役に立つのか疑問である。学校自体もアメリカの方で拡がっている、フリースクール、チャータースクールといったものが、今後これから先、日本へ導入されたり、何らかの影響を受けていく中で、学校はどうなっていくのか？

これらのこと念頭に置きながら、自分達が見える範囲内で自分達が考える未来の学校に必要なことを以下の様にまとめてみた。

①お金（予算）

予算的なものがつけばいろいろなものが買えるし、やはり予算の問題が最初にでてくる。

しかし、単に予算は要求すれば出るというものでもない、一人一人の教員が学校経営という観点から見て考えていく必要があるし、「コスト」や費用対効果といったことにも注意を払っていくことが大切。

②人物・人的ネットワーク

・やる気をもつ教師を含めて人的ネットワークが必要である。
　人的ネットワークを広げることにより、単に教員間だけのネットワークから地域の企業関わるようなネットワークへと発展していく。地域の企業と密接に関われば協力してもらえる。また、寄付金の窓口もひらけるのではなかろうか。

・ネットワークを通して、人と人との直接の関わりあいを重視したい。お互いに、協力する機会をもつことで、孤立した考えをもたないようにする。また人との関わりの中でお互いに評価して、やる気を起こしていくことも出来る。

③直接会う機会の確保

いくら技術が発展して、バーチャルな世界での教育が行われるようになったとしても、児童生徒たちが直接会うような機会は必要である。お互いに友達を人として認め尊重しあう様な教育を進めて行くためにも、お互いに協力しあうような取り組みを行い、進めていく必要がある。

④働く場を体験できる場の構築と親の職場を知る機会の確保

働くことの意義を子どもの頃から理解させるようにしていく必要がある。そのため働く場（職場）について、子どものうちから、知るようにする。学校以外での場を知る機会をつくる。具体的には、

・親の職場に一緒について行く。

・　トライアルウィーク（兵庫県で実施）などを参考にして様々場所・形態で働く。

といったことを取り入れていく必要がある。

⑤親どうしのつながりを持つ機会が必要である。（特に父親）

家庭での教育の重要性が指摘されるようになってきた。しかし、家庭内での教育については、まだまだ母親中心に進んでいるところも多い。そこで父親の家庭教育参加や学校行事への参加を促していく必要がある。具体的には「おやじの会」みたいな組織を作っていく。夜警などで、父親に協力してもらい、その夜警のあとで飲み会を行うなどして学校や家庭教育への興味関心を持たせるようにしていく。

※　上記のように、今の教育を変えていったとしても、成果がでるのは、今の子どもが学童期の子どもを持つようになる３０年後だろう。長いスパンで教育を見て行くべきである。３０年後を楽しみしたい。